



ふるコンだより

発行責任者

宇部市ふるさとコンパニオンの会

会長 脇 彌生

4年ぶりに日常が戻り、4年ぶりに風邪をひいたなんて話も聞きます。インフルエンザが流行していますので、引き続き注意が必要です。異常に暑い日が長く続き、爽やかな秋を感じないまま、晩秋になってしまったようで、慌てて冬物を出した方も多いのではないのでしょうか。皆様にはご自愛いただきまして、まち歩きを通じ、地域の文化や歴史にふれあっていただきたいと思います。それでは、令和5年度イベントの振り返りとともに、各種話題を紹介します。

てくてくまち歩き「ふるさとの川・真締川に架かる橋の数々 歴史の生き証人は面白いんです」

4/22

晴天に恵まれた4月22日(土)、市役所横の真締川公園から真締川に架かる橋巡りに出発しました。参加者29名は2班に分かれて木々の新芽の美しい中を歩きました。

◆新川大橋◆

現在の「新川大橋」を見ながら1798(寛政10)年に開削工事により作られた「新川」について説明し、昭和27年に架けられた「新川大橋」の当時の写真をお見せしました。

◆緑橋◆

そして、次は「緑橋」へ。大正10年、宇部市が市制施行された年に東新川と西新川の市街を結びつける橋として架けられました。当時の橋の欄干は石柱が連なって中央の石柱にはオベリスク様の尖塔が立ち、中央にスズラン灯がついていました。現在、記念碑として西詰めに(スズラン灯はついていませんが)塔が保存されています。



橋 緑

◆寿橋◆

川の西側を「寿橋」へ向かいました。かつての「宇部電気株式会社」のあった場所には中国電力の建物が建っています。

この橋は昭和13年に架けられた橋で、現存する十橋の中で「新

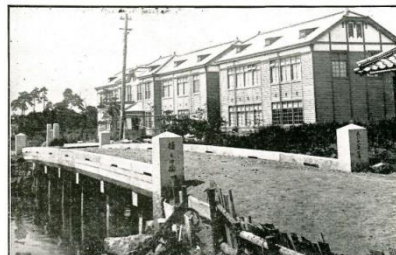
川橋」に次ぐ古い橋です。巨大な御影石製親柱は「近代土木遺産」になっています。昭和12年に建てられた「渡邊翁記念会館」へ向かう道の橋として多くの人々が利用しました。夜道を照らす灯りが点いた橋は行きかう人々を温かく迎えてくれます。



寿橋

◆樋ノ口橋◆

川の東側を歩き、途中「宇部紡績株式会社」の跡地、赤レンガ塀を見ながら「樋ノ口橋」へ向かいました。この橋は、かつて塩田川から流れ込む水の樋門があったので、この名前がついたそうです。明治24年に石橋が架けられ、その後架け替えや拡幅工事を経て平成17年に現在の橋になりました。



校 学 業 工 部 宇 立 縣

大正11年頃の写真には橋の西側に県立宇部工業学校の美しい校舎があります。昭和32年に山口県立医科大学と校舎を交換して西宮(北琴芝)に新校舎を構え現在に至っています。橋のそばに移った県立医科大学は今では国

立山口大学医学部となり、附属病院と共に威風堂々です。

◆やすらぎ橋◆

「樋ノ口橋」から上流にある「やすらぎ橋」は「ふるさとの川モデル整備事業」により平成13年に作られた歩行者専用の橋です。「やすらぎ橋」という名称は公募により決定されました。

◆宇部大橋◆

「やすらぎ橋」すぐ上流の「宇部大橋」から「樋ノ口橋」までの間は親水テラスや野外彫刻のある散策路となっています。「宇部大橋」を西側へ渡り、野外彫刻を見ながら散策路を南へ歩きました。



散策路を南へ

◆新錦橋◆

スタート地点の「新川大橋」まで戻り、国道190号線を渡って「新錦橋」に着きました。桜の季節には美しい花を水面に映しています。現在の新天町名店街と新町商店街をつなぐ橋です。

◆錦橋◆

大正11年に架けられた「錦橋」は東西の親柱にライオン像があるモダンな橋でした。その当時、真締川の一番川下の橋として作られました。東西新川の街が賑やかになり、人々の行き来が盛んになった頃で、この橋の東側は錦橋通りの商店街に通じていました。

昭和35年に橋は東側を少し下流に移動して架け替えられ、親柱

のライオン像は東西それぞれ中津瀬神社と松濤神社の狛犬として移設されました。

◆真締大橋◆

「真締大橋」は昭和 17 年に真締川の河口付近に西側の沖ノ山炭鉱と東側を結ぶ橋として作られ、人や物の行き来が盛んになりました。御影石とコンクリートで作られたその橋は戦争中の空爆に耐え、波や風雨に晒され、半世紀を経て平成 5 年に架け替えられました。旧橋の石材はそばの公園のベンチや石畳、彫刻作品「底流」にもなり、大切に使われています。現在の橋は灯台を思わせる御影石の親柱が目を引きま。

◆新川橋◆

明治 33 年真締川に最初に架けられた「新川橋」は木橋でしたが、明治 41 年、石橋になり、現在の橋は昭和 12 年鉄筋コンクリートに架け替えられたもので、真締川十橋の中で一番古い橋です。

戦後、そばに「新川大橋」ができたので、現在は歩行者専用になっています。隣の「新川大橋」とは平行ではありませんが、この橋の向きが戦前の「常盤通り」の向きです。この橋にも戦時中の空爆の名残があり、その歴史を伝える橋として意義があり、大切にしていきたいと思います。(佐伯)

てくてくまち歩き「曙光みなぎる桃山へ」

5/20

今から 300 余年前に開作された鶴ノ島の北方に連なる山々の一つに小羽山(別号・坊主山)があります。大正期に南斜面一帯が開墾され桃園へと変身し、いつしか桃山と呼ばれるようになったようです。

桃山の中腹で異彩を放っている建物が白亜の学舎・桃山中学校です。戦禍の残る昭和 22 年、新制中学校が合同開校式を以てスタートしました。翌年、新川中学校と鶴ノ島中学校が統合され、桃山中学校として新たなスタートをきっています。この時、校舎も現在地へ新築(木造)移転されています。

今回の見どころの一つでもある「オープンステージ」は昭和 25 年に完成、今も学校行事の会場として活用されているとのことです。その構築の見事さに地元紙が「学園初のオープンステージであり、古代ギリシャの夢を実現」と褒め称えたのも頷けます。



オープンステージ (2014/04/02 撮影)

私には、卒業記念として、自主制作された「群像」に何かしらのインパクトを受けたのも本音です。そこで改めて当時の「実践記録」をもとに、制作に関する顛末を考察してみました。



群像 (2014/04/02 撮影)

何もかもが新しくなった学校にも校風が芽生えてきたのです。それは卒業の生徒によって創られる彫像を卒業記念として残すことが伝統になりつつあったことです。

そこに老朽化した校舎の改築が具現化したことで、その完成年度の記念像の制作を 3 年生全員で 3 年計画のもと進められました。

1、2 年生時は技術面を学び、3 年生時は先ず「詩」をつくり、それをテーマに「構想」を描き、彫像本体の制作に入る。そして台座は業者に外注し、20 体の像の骨組み肉付けは生徒が行い、9 月に少人数で仕上げるというものでした。指導された教師曰く「多人数での制作が協力という精神を培い、それが素晴らしい仕事につながるという自信と誇りをもたら

したのは事実では」と。

改めて鑑賞してみると作品の状態が経年を感じさせない程、手が入っていることに気づかされました。そのことは、子の世代、孫の世代、更なる世代の生徒達に愛され続けている証ではないでしょうか。生徒の残した「僕たちが死んだ後でも、この像は残るだろうね」の言葉が全てを語っているようです。(白石)

てくてくまち歩き「常盤池・夫婦岩池の水が滝になって流れ落ちるんです！」

6/25

宇部市内にある滝と言えば、どこを想像されますか？

東吉部にある荒滝山の「荒滝の滝」？それとも滝は見たことがないという方も多いことでしょう。

常盤池(湖)が満水になった時に現れる「荒手東石橋の滝」と「夫婦岩池の滝」を、ご存知でしょうか？数年前までは私もその存在を知らませんでした。上田純二会員から教えてもらい、大雨が降り続いた直後に轟音と共に流れ落ちる滝を初めて見た時、「常盤池のそばにこんな凄い滝があるのか！」と感動しました。そしてもう一つ大正時代に常盤池の補助池としてできた夫婦岩池にも滝が現れます。



荒手東石橋の滝

今回の「てくてくまち歩き」は、この二つの滝を、皆さんに知っていただきたくて計画しました。ただ、その滝は、いつも見られるのではなく、雨が降り続いて常盤池が満水状態にならないと現れません。いわば「幻の滝」とでも言いましょうか。ですので、年間の「てくてくまち歩き&ときわ公園」のスケジュールを計画する 12 月に、このコースを梅雨時期に設定したものの、滝が現れる

という保証はありませんでした。それでも、皆さんに知って頂きたいという思いで、6月下旬を迎えました。

「常盤池(湖)・夫婦岩池の水が滝になって流れ落ちるんです!!」というタイトルにも拘わらず、開催前日になっても、まとまった雨が降らず、申し込み者には滝が見られない旨の承諾を電話でお伝えしました。

当日は予定通り開催し、滝が出現する場所を確認していただきました。雨が降り続いて常盤湖が満水になったら是非見に行っていたかと思いきや、最後にときわ公園正面で、今年6月10日に撮影した滝の動画をパソコンでご覧いただきました。



夫婦岩池の滝

毎年、6月10日朝6時に、常盤池の水を周辺の田んぼに供給する「栓免」が行われるので、水量は日々減っていきます。大量の雨が降った後の7月3日、待望の滝が轟音と共に現れました。まち歩きに参加された皆さん、ご覧になられましたか？

3年前、上田会員が恩田子ども委員会の皆さんをガイドした際に、周辺が荒れていたことから、このままにしていけないと、石川悦子会長が関連団体に呼びかけ、12月には「常盤池(湖)本土手保存有志の会」が発足、小中高生27名を含む70名が集まって、常盤池(湖)本土手、荒手東

石橋と周辺を掃除しました。常盤池が満水時にオーバーフローして流れる水路(荒手)では、落ち葉や倒木などを片付け、周辺の竹藪も整備したので、大きく環境が改善しました。

そのお陰で水の流れが良くなり、久しぶりに勇壮な滝の出現が見られるようになりました。

2021年には、常盤池本土手の歴史を伝える説明板も設置し、小学生たちが見学に訪れる場所になっています。先日は、児童達にスマホで滝の動画を見てもらいましたが、次に滝が現れるのは、いつになるのでしょうか？(脇)

てくてくまち歩き「中津瀬神社は別の場所にあった！ 狛犬のはずがライオンの石像！」

9/16

今も宇部市民に愛されている春の大祭「新川まつり」の中心地にある中津瀬神社の歴史を紐解いてみましょう。



中津瀬神社

今から220年前の宇部市街地は小高い砂地でした。雨が降り続くと全く米の収穫がありませんでした。そこで時の領主、福原房純公は今の山口大学医学部周辺(樋ノ口)から真っ直ぐに砂洲を掘り割りして新しい川(新川)を作りました。

その後、現在のヒストリア宇部(旧山口銀行宇部支店)の場所に農業の神、河の神、海の神を祀る中津瀬神社を川に向かって建立しました。

ここは何故か昔から水質の良い水が出て、いつの間にか「水神様」と呼ばれて愛されるようになりました。上水道のない時代には周辺の人々にはよろこばれたことでしょう。

川を中心に人々が集まり、農具市が立ち並び、その後の新川まつりに発展しました。しかし、明治44年頃川幅を広げるためにやむを得ず現在の場所(戦前は、現在のおよそ2倍の広さ)に移転しました。

ライオンの石像のことですが、実は大正11年に架けられた旧錦橋の親柱に鎮座していたモダンな装飾の名残なのです(前述)。今も市民に愛されている中津瀬神社、この珍しいライオン像も見守り続けてくれることでしょう。(安井)

てくてくまち歩き「ふるさとの清流(しずる)を訪ねて」

9/24

小羽山台の中央に静かに佇む蛇瀬池があります。江戸時代、藩の財政立直しの一環として鶴ノ島開作が行われ、その灌漑用水確保の為、宇部の領主だった福原家家老の椋梨権左右衛門により築造された人工の池です。

当時、観音岳の馬の背周辺より集水し、曲がりくねった蛇瀬川の流れがありました。この山の谷の狭い所に堤防を築いたのです。その工法は中心に石を組み、粘土と石灰を混ぜたものを叩きつけて固め、さらに土を盛った江戸初期としては最先端の技術で施工されていました。この開作により二千石以上が藩にもたらされました。



斜樋

現在の堤防には桜並木があり、かつて池の水を流す為に作られた斜樋がベンチとして利用されたのでしょうか、草にうもれながら白い岩肌を見せています。訪れる人も少なく、これらの歴史や先人の叡智が埋もれたままなのが惜しまれてなりません。

ふるさとの山に端を発した清流は蛇瀬池を潤し、残された役目を果たしつつ蛇瀬川へ、真締川へと注いでいます。(今城)

宇部市ふるさとコンパニオンの会協賛「石炭まつり」

10/29

10 月最後の日曜日、秋晴れのときわ公園では、ハロウィン Day もあり、さまざまなイベントが行われました。ふるさとコンパニオンの会は、例年、石炭記念館の「石炭まつり」に協賛し、メタセコイアの実や葉などを使った小物作りと紙芝居上演と館内ガイドで参加しています。

今年は少し風が強かったものの、ときわ公園を歩く方は多く、SL 協の仮設テント会場ではたくさんのご家族にストラップなどを作っていただきました。



ワークショップの様様

石炭記念館正面では、宇部の歴史の紙芝居、SL の汽笛、

石炭の燃える匂い。「石炭まつり」の一日は、石炭記念館の館内外、通常にはない賑やかさでした。(遠藤)



こんなのできました

◆遠藤の蛇足

このところ、石炭記念館の展示への反応が変わってきました。少し前までは、働いていた・住んでいた・遊んでいた懐かしさの方が多かったのですが、市外県外、案外市内の方も、「初めて」「ラピュタみたいで面白い」という方が増えてきたのです。

暗い怖いイメージを持つのは 50 代以上な感じ。その下は宮崎アニメ世代、昭和レトロさもウケているようです。石炭を見たことが無い世代が大半なので、石炭を使ったアクセサリーも、面白いかもしれません。

第 30 回 UBE ビエンナーレ (現代日本彫刻展) * 模型応募作品展 *

2 年に一度開催される UBE ビエンナーレ、今年は応募の年です。来年の野外彫刻展は第 30 回を迎えます。



全国にさまざまな野外彫刻展はありますが、60 年以上続いているのは世界でも稀なこと。でも、私たち宇部市民は、実物制作作品が選ばれるところから、実物が実際に設置される所、各賞が決まる瞬間まで、何より彫刻そのものを身近で見られる(触れる)という特等席に居ることが嬉しいのです!

来年に制作展示される作品 15 点は既に決まり、10/27-12/3 実物制作指定作品展がときわ湖水ホールアートギャラリーで行われ、模型を見ることが出来ます。

現在彫刻の丘に展示中の作品たちとお別れするのは大変寂しいのですが、次回、海外の方多めな作品群も、今から楽しみです。

第 30 回 UBE ビエンナーレ(現代日本彫刻展)は、2024 年 10 月 27 日~12 月 22 日まで開催されます。

まち歩き予定表

日時	集合場所・距離	内容
12/10 (日) 9:30~12:00	中山バス停近くの 空き地 約 5 km	てくてくまち歩き 「ときわ公園と並んで、遠足の行き先だった白岩公園、八丁岩に刻まれた『大自然』、中山観音廣福寺、大鳥羽神社」
12/16 (土) 9:50~12:00	琴崎八幡宮バス停 約 3.5 km	古地図を片手にまちを歩こう 上宇部西「江戸時代、宇部を治めた福原氏は、中尾に田屋(御館)を構えました。福原邸跡、維新館跡、鎌田橋、中村地蔵尊、琴崎八幡宮」
1/13 (土) 9:00~13:00	JR 宇部新川駅前 約 8 km 健脚コース	てくてくまち歩き 「JR 宇部線の開業 110 周年記念ウォーク 1914 (大正 3) 年 1 月 9 日、宇部軽便鉄道、宇部~宇部新川間で開業」宇部新川駅から電車で宇部駅へ、開作駅跡、厚東川鉄橋跡、藤曲駅跡
1/21 (日) 9:50~12:00	藤山北街区公園 (藤山ふれあいセンター近く)約 4 km	古地図を片手にまちを歩こう 藤山「廻船業で栄えた藤曲村、『犬尾』と書いていた居能、かつての海岸線に沿って『犬の尾っぽ』歩き」
1/28 (日) 9:30~12:00	丸山ダム駐車場 約 5 km	てくてくまち歩き 「丸山ダムと『伊能忠敬が測量した』道」厚東川ダムの補助ダム「丸山ダム」と旧山陽道(どんだけ道)

■申し込み、お問い合わせ ※定員 30 名、受付は開催日の一ヶ月前からです。 当日連絡先 090-9060-9752 (脇)

てくてくまち歩き	宇部市観光交流課	TEL(34)8353	FAX(22)6083
古地図を片手にまちを歩こう			
てくてくときわ公園	宇部市ときわ公園課	TEL(54)0551	FAX(51)7205

